

■家具の転倒防止措置が命を守る！

平成7年に発生した阪神・淡路大震災では、建物の中でけがをした人の約半数（46%）は家具の転倒、落下が原因だったという調査結果があります。

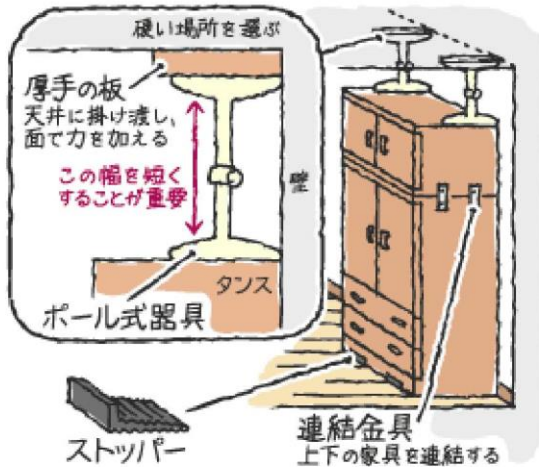
地震対策において、自宅で「自分の命は自分が守る」ため、また、火災の防止や避難の妨げにならないようにするためにも、家具の転倒防止措置をとることは非常に重要なことです。

壁などに穴を空けないで行える、効果的な家具の転倒防止措置について

■ 「大地震では家具は必ず倒れるもの」と考える

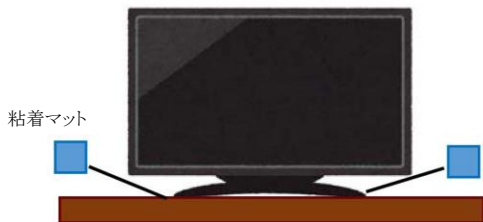
地震に備えて今すぐ家具の固定をしましょう。家具の転倒防止方法には様々な方法がありますが、L型金具のように壁に穴を空けて固定する方法以外の方法もありますので、ご紹介いたします。複数の対策を講じることでその効果を高めることもお勧めします。

[タンスの固定]



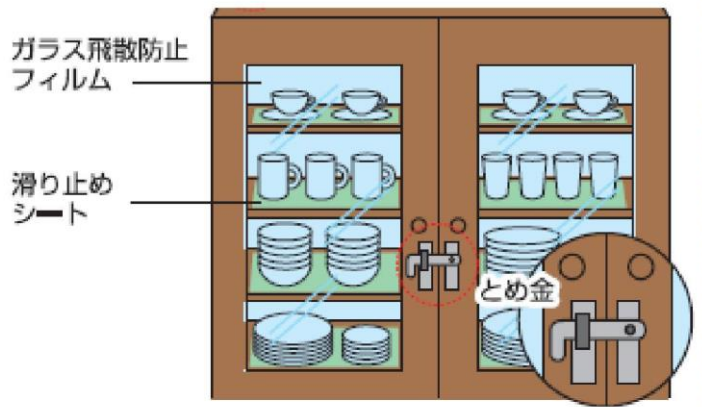
ポール式器具はタンスの奥の方（壁側）で、天井や家具の堅い所に取り付け、床もストッパー式器具などで固定します。段ボール箱や新聞紙を畳んで床に挟むことでそれぞれ代用しても一定の効果を得ることができます。

[テレビの固定]



テレビとテレビ台の間に設置するタイプのもの振動を吸収する力により、転倒を防止します。

[食器棚の固定]



観音扉が開かないようにとめ金をつけたり、ガラス飛散防止フィルムや滑り止めシートを貼るなどして、ガラスや食器が飛び出て凶器にならないよう工夫をしましょう。

[本棚の固定]



タンスと同じように、壁の中の硬い所があるとところにポール式器具を取りつけます。また、壁に穴をあけないタイプの粘着式の固定器具もあります。

■転倒防止措置以外に気を付けること

転倒防止措置のほか、扉の前など避難の妨げとなる場所や寝室には家具を置かない、寝床に倒れない配置を工夫する、重いものは家具の下部に収納するなどの工夫をすることも重要です。